

導入事例
てれたっち「てれたっち」があれば、普段は消極的な児童も発表したくなる授業に。
クラス全員の積極性、意欲が大幅に向上!

「表現力の育成」を学校全体の課題に、課外活動などにも積極的に取り組まれている青森市立金沢小学校。同校でクラス担任のほか、研修部の現職教育や教育の情報化を担当されている石田尚徳先生に、「てれたっち」導入前後の変化や効果、実際に使われてみての感想などを伺いました。

※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。



※ディスプレイは別売りです。

導入商品

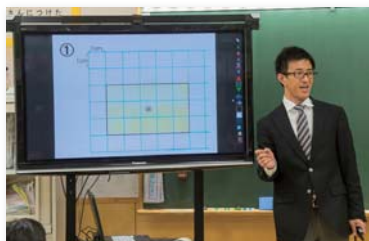
外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」

DA-TOUCH / WB

様々な電子黒板と一線を画する「てれたっち」。使い勝手、設定の簡単さは抜群

「てれたっち」導入前後の環境について教えてください。

石田先生:「てれたっち」は本校に初めて導入された電子黒板ですが、私自身は過去に様々な電子黒板を利用し、比較検討などを行った経験があります。既存のディスプレイに外付けする「てれたっち」は、ディスプレイ一体型の電子黒板とは一線を画するタイプで、軽量は群を抜いていると思いました。複数クラスで電子黒板を共有している場合は、教室から教室への移動が苦にならないことも重要です。ほかの電子黒板は、毎回起動の度にキャリブレーションが必要で、セットアップが面倒なものほとんどでしたが、「てれたっち」は一度設定してしまえば毎回設定する必要がなく、準備が非常に楽ですね。



注目してほしい箇所が一目瞭然に

集中力、安心感、一体感……、何より全員の積極性が高まりました

授業では「てれたっち」をどのように使われていますか。また、従来と比べて違いなどはありますか。

石田先生:まず、注目してほしい箇所がある時に、目移りしないようディスプレイに表示させるという使い方がありますね。教科書や資料集を開けばたくさんの情報が目に入りますが、「てれたっち」で表示すればどこを見たらよいかすぐにわかり、より授業に集中できるようになります。先生や周りの児童が自分と同じ教科書を見ているという安心感もあるようです。言葉のみによる説明だと聞き逃しや勘違いが心配ですが、それもなくなり、指示も1回で済むようになりました。また、児童のノートを画面に表示して発表させることもありますが、画面に直接タッチペンで書き込みできますから、発表者も聞き手も、みな同じ画面を見て、目を合わせて対話できます。一体感のあるコミュニケーションができますし、授業のテンポも良くなりました。

児童の皆さんはタッチペンを自分で持って書き込んだりするんですね。

石田先生:皆「てれたっち」を使いたいようで、発表の時は積極的に手を挙げます。普段は消極的な児童も進んでタッチペンを手にして、「皆の前で発表したい!」となるから驚きです。間違えてもデジタルだからやり直しがきくという、心理的なハードルの低さもやる気につながるのかと推測しています。また、「てれたっち」は書き込んだものを保存できますから、次の授業で振り返りとして見せることもできます。



タッチペンの様々な機能を使って

物怖じせずに「思い」を表現できる子に

「てれたっち」で児童の皆さんにどのような変化がありましたか。

石田先生:本校では今年度から「表現力の育成」を学校全体の課題として掲げていますが、「てれたっち」を使って皆の視線を集めて1人で発表することは、表現力を伸ばすことにつながります。友達の発表を聞いて、ノートを見せてもらい、さらにはディスプレイ画面に書き込まれる内容を目の当たりにすることで、「自分はこのうだ」「こうしたほうがわかりやすい」という、「思い」が出てくるものです。そこに気軽に書き込みできる「てれたっち」があれば、ちょっとしたことでも付け加えたりしたくなるようです。自分の「思い」を表現するために、物怖じせずに参加できるようになります。電子黒板を使った発表はプレゼン能力の向上にもつながります。これからの社会を生きる子どもたちには必須のものですから、ぜひ力をつけてほしいです。



皆「書いてみたい!」と積極的

取材にご協力いただいた先生



青森市立金沢小学校
石田 尚徳 先生

CLIENT DATA



導入学校 / 青森市立金沢小学校
所在地 / 青森県青森市
設立 / 1968年